



総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

地域人材ネット

復興イメトレ(=復興状況のイメージトレーニング)

中村 仁 (なかむら ひとし)

芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科 教授



○ 登録者情報

所在地

埼玉県さいたま市

略歴

2006年 多様性都市建築研究所(ディヴェルシタ都市設計室) 主宰
2006年 東京大学工学系研究科 特任助教(兼職)
2010年 東京大学 生産技術研究所 特任研究員(兼職)
2012年 芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科 教授

著書・論文等

・中村仁, 加藤孝明:「埼玉県における大規模震災を想定した復興準備の取り組み」, 特集: 東日本大震災の復興を検証する: 復興は着実に進んでいるのか, (国際交通安全学会) IATSS review 39(3), pp274-281, 2015年2月
・東日本大震災合同調査報告書編集委員会(「都市計画編」編集委員として):『東日本大震災合同調査報告: 都市計画編』, 日本都市計画学会, 2015年1月

○ 復興イメトレ(=復興状況のイメージトレーニング)

取組の内容

地震などの自然災害への「備え」というと、通常は、災害直後の応急対応(救助、救援、避難)や復旧活動を思い浮かべると思いますが、しかし、大規模災害の場合、応急対応や復旧だけでなく「復興」が必要になります。過去の震災復興をみても明らかのように、復興の過程では、被災した住民の生活再建のニーズと行政の定める復興計画の間で対立が生じるなど、さまざまな問題が発生します。復興に対しても事前に備える「復興準備」が必要です。

「復興準備」について、近年、埼玉県、さいたま市で新たな取組みが進められています。それが、中村仁が開発に関わった「復興イメトレ」(=復興状況イメージトレーニング、復興まちづくりイメージトレーニング)です。「復興イメトレ」は、特定の地域を対象として、「復興準備」で何をしたらよいかを想像力を働かせて体験的に検討し、実践に活かすためのトレーニングです。



実績

「復興イメトレ」は、2007年～2008年度に埼玉県と東京大学(加藤孝明研究室)との共同研究で開発した手法です。その後、現在に至るまで年数回のペースで継続的に実施しながら内容を改善し、2014年2月に埼玉県の、2015年8月にさいたま市の「復興準備」の公式プログラムに位置づけられています。中村はこれまでに埼玉県下の市町、さいたま市で実施された「復興イメトレ」のほぼ全てに講師として関わり、大学の研究室としてその実施に協力しています。

工夫した点や苦労した点

「復興イメトレ」では、大きく次の3つの内容をグループワーク方式(1グループ8名程度)で行います。

- 1) 被災者の立場になって生活再建シナリオを考える
- 2) 行政(計画者)の立場になって市街地復興シナリオを考える
- 3) 生活再建シナリオと市街地復興シナリオの整合性を考え、生活再建支援策や市街地復興の目標や進め方を考える

ひとことPR

「復興イメトレ」を体験して、復興の状況をイメージしてください。皆様ひとりひとりのイメージの力が「復興の備え」につながっていきます。そして、それは、防災・減災のまちづくりにもつながっていきます。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革	○	7	まちなか再生
	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策	○	9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
	5	定住促進		11	その他
	6	観光振興・交流			

関連ホームページ

芝浦工業大学 地域安全システム研究室

<http://www.planktonik.com/nakamurajin/>

戻る